


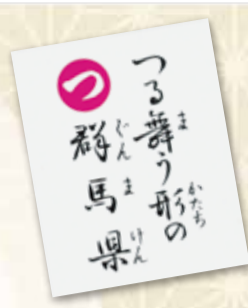
# 読み継ぐ群馬の誇り

## ～上毛かるたで巡るふるさと～

あなたは上毛かるたの札をどれくらい覚えていますか？

県が7年に実施した県民アンケートでは、読み札全44枚の半分以上を覚えている人は全体の約5割という結果でした。その中で10～20代が最も少なく、約4割にとどまっています。一方で、札を多く覚えている人ほど群馬県への愛着が深まったという結果もあり、県では多くの人が上毛かるたに触れられる機会づくりに取り組んでいます。

このお正月に、郷土に誇りを持ち愛着を深めてもらうきっかけとなるよう、上毛かるたを今、改めて紹介します。



### 誕生の背景と歴史

昭和22年、戦後間もない中で、群馬の子どもたちが明るく楽しめるものを作りたいという思いから上毛かるたが誕生。読み札は公募題材をもとに18人の編集委員がまとめ、絵札は小見辰男氏が作成しました。その後、昭和43年に現在の絵札へ一新されました。

GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)の検閲がある中、札には群馬を代表する自然や歴史、偉人などが題材に選ばれました。学校や地域行事を通じて、次第に県民の共通の文化として定着。多くの人々に親しまれ、来年80周年を迎えます。

#### 昭和42年まで発行の絵札

【出典】「知れば、もっとぐんまが好きになる！「上毛かるた」で見つける群馬のすがた」



デジタル版(令和4年度改訂版)はこちらから閲覧できます▼



### 札でたどる、群馬を巡る



上毛新聞社  
相談役 内山 充さん  
昭和52年上毛新聞社入社。編集局長、代表取締役社長・主筆、取締役会長などを経て、昨年6月に相談役に就任。

上毛新聞で5年10月から昨年9月まで上毛かるた全44枚について連載した「上毛かるたを歩く」。その執筆を担当した同社の相談役・内山充さんに、札の奥深さや魅力について伺いました。

#### 札に込められた思いを探して

上毛かるた一枚一枚の札の背景を知りたいという思いが強くなったのは、新聞記者になってからです。子どもの頃は特別熱心に取り組んでいたわけではありませんでした。それでも読み札はずっと頭に残っていて、すらすら言える。それが不思議でした。そこで札に込められた思いを探るため、実際に現地で44枚の札と向き合う連載を始めました。

#### 「雷と空風 義理人情」



一枚一枚の札を調べていくと、44枚それぞれに息づく群馬の歴史や文化が見えてきました。例えば、上毛かるた制作時には、小栗上野介忠順などの偉人たちも取り上げる案がありましたが、GHQの検閲により札に採用することはできませんでした。そこで「雷と空風 義理人情」に偉人たちへの敬意や思いを重ね合わせて表現しました。またこの読み札を赤くし、箱を開けた時一番上になるよう、いろは順を並び換えたことには、GHQの検閲に対する静かな抵抗の意味が込められています。

### 全域マップ

【出典】ガイドマップ「上毛かるた」ゆかりの地 文化めぐり



### 楽しみながら知る群馬の魅力

このように札に込められた思いを知ると、上毛かるたは子どもだけではなく、大人にとっても群馬を学ぶきっかけになります。また人口に合わせて読み札が更新される「力あわせる190万」のように「自分の頃は〇〇万だったよ」と世代を超えた会話のきっかけになる札の存在も、上毛かるたならではの魅力です。

私自身は「歩く」ことを大切に、札の場所を訪れ、現地の風景や人々の話から上毛かるたの奥深さや面白さに触れてきました。子どもも大人も、それぞれの楽しみ方で群馬を知ることができる、それが上毛かるたの良さだと思います。

ぜひ皆さんも、上毛かるたの札の奥深さに触れるとともに、群馬の魅力を再発見しに出掛けてみてはいかがでしょうか。

## 上毛かるたで夢を形に！「100万円分の夢を叶えます」プロジェクト始動！

各地域の予選大会と郡市大会を勝ち抜いたチームが熱戦を繰り広げる第77回「上毛かるた」競技県大会が2月15日(日)に開催されます。今年度からは団体戦優勝チームの夢を実現する新しい企画がスタート！

小学校低学年・高学年、中学校の3部門それぞれの優勝チームが考える「学校でみんなが利用できる欲しいもの」を県がサポートし、各100万円以内で実現します。

県では、このプロジェクトを通して、上毛かるたに親しむ子どもが増え、郷土愛を深めてもらうことを目指しています。

### 大会形式



昨年度の県大会の様子

## 選手から審判に、そして次の世代へ



小池 唯さん(左)・凛さん(右)姉妹

上毛かるたの競技大会で公認審判を務め、地元地区の練習会では、後輩の練習相手としても活躍している、小池唯さん・凛さん姉妹。上毛かるたとの出会いや楽しさ、審判としての取り組みについて伺いました。

### 小池 唯さん

小学1年生の時に小学校の先生に誘われて上毛かるたを始めました。県大会で優勝することを目標に練習を続けてきたので、中学3年生の時に初めて優勝できた時は本当にうれしかったです。

高校生になっても大好きな上毛かるたに携わりたいと思い、競技大会の公認審判を務めるようになりました。試合で札を取るスピードはとても速く、判定が難しいこともありますが、選手時代に鍛えた動体視力を生かすことができます。

ぜひこのお正月に家族や親戚と上毛かるたに親しんでもらい、改めて上毛かるたに興味を持っていただけたらうれしいです！

### 小池 凛さん

姉の影響で幼稚園の頃から上毛かるたに触れ、小学校1年生から競技に参加していました。コロナ禍で練習や大会ができないつらい時期を乗り越えて県大会で優勝した時のことは、今でも鮮明に覚えています。選手の頃は、役札をそろえたり自分の予想通りの札が読まれたりした時に、競技ならではの面白さを感じていました。

高校生になり、私も公認審判を務めています。選手が試合に勝った喜びや負けた悔しさが一番近くで感じられることが審判の醍醐味です。

これからも多くの人に上毛かるたを楽しんでもらい、次の世代に引き継いでいきたいです！



原町子ども会(東吾妻町)の練習の様子

## 上毛かるた × ぐんま応援びと

上毛かるたのゆかりの地や、読み札となった県内の風景をテーマとした写真投稿コンテストを開催します。入賞者には豪華景品をプレゼント！

**日** 1月9日(金)～2月25日(水)

**応募対象** 募集開始から過去1年以内に撮影された写真

**問** 県庁メディアプロモーション課  
(☎027-898-2694)

応募方法など詳しくはこちらから▶



## ◆ 上毛かるた × おまグン ◆

群馬を舞台にしたアニメ「お前はまだグンマを知らない」と、県公式YouTubeチャンネル「tsulunoss」がコラボ！上毛かるたが登場する回に関連した特別動画を「tsulunoss」で公開予定。お楽しみに！

視聴はこちらから▶

